

報 文

食物栄養学科カリキュラムの諸性質に関する一考 —平成 26 年度カリキュラム分析—

平田孝治、鈴木由衣子、松田佐智子、乗富香奈恵、
武富和美、田中知恵、西岡征子、溝田今日子、
橋本正和、成清ヨシエ、福元裕二、桑原正臣

(西九州大学短期大学部 食物栄養学科)

(平成 26 年 12 月 22 日受理)

**Curriculum Characterization of Department of Food and Nutrition, NUJC
- Analysis of the Learning/Performance Goals for Learning Outcomes on the Curriculum, 2014 -**

Koji HIRTA, Yuiko SUZUKI, Sachiko MATSUDA, Kanae NORIDOMI,
Kazumi TAKEDOMI, Tomoe TANAKA, Seiko NISHIOKA, Kyoko MIZOTA,
Masakazu HASHIMOTO, Yoshie NARIKIYO, Yuji FUKUMOTO, Masaomi KUWAHARA

Department of Food and Nutrition

(Accepted December 22, 2014)

食物栄養学科カリキュラムの諸性質に関する一考 —平成26年度カリキュラム分析—

平田孝治、鈴木由衣子、松田佐智子、乗富香奈恵、
武富和美、田中知恵、西岡征子、溝田今日子、
橋本正和、成清ヨシエ、福元裕二、桑原正臣

(西九州大学短期大学部 食物栄養学科)

(平成26年12月22日受理)

Curriculum Characterization of Department of Food and Nutrition, NUJC - Analysis of the Learning/Performance Goals for Learning Outcomes on the Curriculum, 2014 -

Koji HIRTA, Yuiko SUZUKI, Sachiko MATSUDA, Kanae NORIDOMI,
Kazumi TAKEDOMI, Tomoe TANAKA, Seiko NISHIOKA, Kyoko MIZOTA,
Masakazu HASHIMOTO, Yoshie NARIKIYO, Yuji FUKUMOTO, Masaomi KUWAHARA

Department of Food and Nutrition

(Accepted December 22, 2014)

Abstract

In Nishikyushu University Junior College, we formulated ‘a basic policy about the education’, including the learning/performance goals for the learning outcomes from each curriculum, in 2014. The goals based on competency and consists four domains includes generic element and specialized element in each. The four domains construct pyramidal structure: layered the lower attitude and intentionality, the middle knowledge, skills and expression, and the upper total performance (e.g. behavior, action, critical thinking, and creative thinking). To the specialized subjects that full-time teachers teaches, we analyzed the curriculum of the department of Food and Nutrition. The results were following. The curriculum attached great importance to the specialized knowledge domain and also valued that domain by analyzing the allocation points from the specialized subjects. By analyzing relations with the learning/performance goals and the diploma policy that consists of six elements, the curriculum attached great importance to the two elements(#2 and #6) by analyzing the allocation points from the specialized subjects.

1. はじめに

1990年代以降の教育改革は、我が国の高等教育機関に大きなパラダイム転換を広く求めるものとなった。その改革は、文部科学省大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」(1998)¹⁾に始まり、文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」(2008)²⁾、そして「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(2012)³⁾によって、大きく加速されたと考えられる。時代や社会を背景に、これらによって従来の学力を重視したモダン型教育から実践的能力・業績を重視するポストモダン型教育、そして今日においては諸能力全体を総合的に捉えるコンピテンシー型の学修成果を求める教育へとシフトしている。⁴⁾

大学機関全体及び教育課程の改革においては、今日の社会が教育に求める諸能力、ユニバーサル化やグローバル化を背景に、学士力、学修成果の重視、教育の質保証とこれを担保するPDCA(Plan-Do-Check-Act)の仕組みが強く求められている。この一方で、短期大学に対しては、時代の役割を終えたかの如く、在り方の根幹となる制度上の位置付け等が問われる中において、社会や時代の多様な要請に対応して特色を生かしつつ多様化・個性化を図り、より一層の教育の充実を求めるという状況にある。

本学では、平成25年度に全学的な議論を重ね、平成26年度「教育に関する基本方針」を策定し、4年制大学教育と同等レベルの(人間教育、短期大学士並びに諸資格養成としての)教育の質保証を行うものとなった。平成27年度には、当該年度の方針に基づく教育の実質的な運用が開始される。平成26年度は、試験運用段階としてカリキュラムのPDCAを行い、翌年度の本格導入に繋げていきたい。本研究では、本学食物栄養学科の(PD)CAの段階としてカリキュラムマップのチェック(後述するカリキュラムチェックリスト(CCL)の分析)と今後の改善課題等について考察する。

2. 到達目標及び学修成果について

本学食物栄養学科が定めた平成26年度の学修の到達目標及び求める学修成果について、表1に示す本学の「教育に関する基本方針」のなかで策定された。本学の到達目標の策定は、コンピテンシー概念を適用したもので、観点別能力要素として【態度・志向性】、【知識・理解】、【技能・表現】、そして【行動・経験・創造的思考力】の4つの観点別能力要素に大別され、それぞれに3つ以内の小項目にまとめられている。それぞれの小項目の下層には、主立った求める学修成果が指標として示される。

コンピテンシーの概念は、一般には「社会において目標を実現するために必要な能力」とされ、企業・団体等

での職員の能力評価に適用されているが、大学教育への適用においては文部科学省がまとめるように、「単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求(課題)に対応することができる力」と説明されており、これに本学の教育の特色を加味するならば、卒業後の社会生活や職業生活のクオリティ向上に必要な能力を修学期間に獲得するものと言える。到達目標の4つの観点別能力要素区分は、コンピテンシーの概念に基づいて、下層に【態度・志向性】、中間層に【知識・理解】と【技能・表現】、上位層に【行動・経験・創造的思考力】を置くピラミッド型構造を形成する。コンピテンシーは、基本的に諸能力要素がリスト化されるものではなく、観点別能力要素が複数の知識レベルの次元から構成された立体的構造体系の集合体と捉えるが、学修成果の位置づけを明確にするために、4つの観点別能力要素をベースとした到達目標を策定し、その下層に主に求める学修成果を記述している。学生は、修学期間を通してこのピラミッドを完成させ、社会人・専門職業人としての諸能力を学修成果として獲得させる。

カリキュラムを到達目標(観点別能力要素)の文脈で構成するために、標準的なカリキュラムマップ^{4) 5)}を参考に、本学独自のカリキュラムチェックリストを作成した。これに基づいて、カリキュラムを構成する科目が、観点別能力要素を評価の観点として配点することで、カリキュラムポリシーの実質化を図る。表2にカリキュラムチェックリストの作成例を示す。これは、所謂カリキュラムマップを指すが、運用システム上ではカリキュラムチェックリストと称する。

表2に示すように評価の観点は、表1の教育に関する基本方針に示される到達目標に記載されている通り、本学カリキュラムの共通要素とする汎用的能力要素と、学科独自の専門的能力要素のそれぞれに4つの観点別能力要素1)2)3)(設定を3項目以内としている。)が置かれており、観点別能力要素はこれら24項目の到達目標を設定している。各カリキュラムを構成する各科目は、教育(学修)の内容に応じてこれら24項目の要素から該当する要素を選択し、合計が100点となるように配点評価(学修比率)を設定する。各科目の学修到達目標の設定については、当然24項目に該当しない教育内容が授業計画に含む場合もあると考えられるが、カリキュラムを構成する科目としてその学修の意義が明確にされなければならない。カリキュラムを構成する科目としては、基本的には共通する観点別能力要素の24項目に対して最大限の関連付けを行い、シラバスを作成することが必要条件となっている。

表1 西九州大学短期大学部【教育に関する基本方針 2014(H26)】(抜粋)

受入れ方針	<p>アドミッション・ポリシー→ 西九州大学短期大学部の教育理念・目標に則り、各学科の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜する。</p> <p>【食物栄養学科】 食と栄養について学び、人々の健康づくりに貢献する栄養士の育成を目的とし、次のような意欲、能力、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。 ①食の大切さや食育の重要性をとおして、人々の健康づくりに貢献したい人。 ②知識や技術を磨くことに努力を惜まない人。 ③食べることが好きで、おいしいものを作ることに関心のある人 ④人のために役立つ意思をもち、食の現場で活躍したい人。</p>			
教育課程方針	<p>＜カリキュラム・ポリシー＞ 短期大学課程における教育課程編成の方針 1. 西九州大学短期大学部は、学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。 2. 西九州大学短期大学部は、教育課程の編成に当たっては、学科の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広い深い教養及び総合的な判断力を培い、確かな人間力を涵養するよう適切に配慮する。</p> <p>短期大学課程における教育課程運営の方針 1. 西九州大学短期大学部は「学位（短期大学士）授与の方針」に定めた、卒業までに修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバス等で「学位（短期大学士）授与の方針」で定められた知識・能力等の対応と、それら諸能力等を修得する方法を理解しやすいように配慮する。 2. 西九州大学短期大学部は、学生個々人の主体的で発能発意を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外の学習機会に加え、学外での体験的学習を通じ、課題に積極的に挑戦させる。 3. 西九州大学短期大学部は、学生が自己の到達度を自ら判断し、必要な科目を自ら選択し、履修計画を作成できるように教育課程を構成する。 4. 西九州大学短期大学部は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評価は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複数の・複層的な積み上げによる成績評価を行う。</p> <p>教育課程の編成及び運営の方針に基づき、次の成績評価の方針を設ける。(※平成27年度より運用開始) ＜アカデミックセサメント・ポリシー＞※ 各科目において、到達目標に定める学修成果に対して評価の観点を明確にし、学生の成績評価を示す。 各科目では学修に対する測定設計（手記、筆記試験、技能試験、パフォーマンス評価、ルーブリックなど、真正の評価を含む）を行う。 ①成績評価は、【態度・志向性】・【知識・理解】・【技能・表現】・【行動・経験・創造的思考力】の領域区分による到達目標に記される学修成果として評価を行う。 ②それぞれの教育内容に対応する学修成果について、知識の次元に類別（例えば、非認知的成果・知識成果・技能成果・認知的成果に類型）し、学修成果の到達基準（例えば、記憶・理解・応用・分析・評価・創造の段階的レベル）を設定し、各学修内容の測定法（例えば、筆記試験・技能試験・レポート・質疑応答・パフォーマンス・ルーブリック）を明確にして評価を行う。 ③各学科の学士課程教育においては、各種専門資格・免許の養成に対して外部指標を設けアセスメントテスト等を実施し評価を行う。</p> <p>教育課程の編成及び運営の方針に基づき、次の学修成果の評価並びに改善の方針を設ける。 ＜エビュレーション（評価・改善）ポリシー＞※ 【評価】 学修成果の評価結果を本人に適切にフィードバックし、その後の改善や成長につなげていく。 【改善】 学修成果の評価結果は、直接的に開示するものとして、カリキュラム、コース内容または教育の改善、そして学修成果を改善する可能性がある変更に役立てる。</p>			
学位授与方針	<p>＜ディプロマ・ポリシー＞ 本学は短期大学士課程において、社会人としての汎用の能力の修得に加え、食物栄養、生活福祉、幼児保育の3学科が提供する「栄養、福祉、保育・教育」に関する専門的知識・技能を有する人材を育成する。また本学は、地域の自然や文化を愛し、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力をもつ教養人であるとともに、専門的知識・技能を駆使して、グローバル化・高齢化・人口減少社会等によってもたらされた新しい課題の解決に向けて挑戦する心をもち、地域で活躍する専門職業人として「地域生活を支援し、創造する力」を育てることを、教育の理念・目標として掲げる。 本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育、専門教育及び課外活動を含む学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、本学の短期大学士課程・保育福祉専攻に共通する到達目標を定め、これを学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とする。</p>			
	<p>I【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 ①自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。 ②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。 ③主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。 ④社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 ⑤生涯にわたって自律・自立的に学習できる。</p>	<p>II【教養ある専門職業人としての基礎力】 ①社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。 ・多文化・異文化に関する知識の理解。 ・人類文化、社会、自然に関する知識の理解。 ②専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。 ③上記知識体系を外部の視点で捉え直すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。</p>	<p>III【社会人としての汎用の能力】 【技能・表現】 ①確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。 ②自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。 ③ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、メールに則って効果的に活用することができる。 ④情報を複眼的、論理的に分析し、表現できる。⑤問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。</p>	<p>IV【地域生活を支援し、創造する力】 【行動・経験・創造的思考力】 ①上記I～IIIの態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。 ②地域での実践活動をもとに、上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。 ③上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる。</p>
	<p>【食物栄養学科】 厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、短期大学士（栄養士）の学位を授与する。 ①広く社会に貢献できるよう豊かな人間性と教養を身につけている。 ②食と健康に関する専門知識を身につけている。 ③食の現場で活躍するために必要となる創造性や判断力を有している。 ④栄養士の現場で必要となるコミュニケーション能力を身につけている。 ⑤社会に必要なコミュニケーション能力を身につけている。 ⑥多様化する現代の食生活に関心を持ち、それらを総合的に捉えることができる。</p>			
共通汎用の能力要素・到達目標及び学修成果	到達目標と学修成果			
	<p>【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 【態度・志向性】 1) 自他意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。 ①自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。 ②相手の意見を丁寧に聞き、意見の違いや立場の違いを理解して協調対応ができる。 2) 社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもちることができる。 ①自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下の対応ができる。 ②社会のルールや人の約束を守って社会の一員として責任を持って立ち振る舞い対応ができる。 3) 将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。 ①社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。 ②ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。 ③自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。</p>	<p>【教養ある社会人としての基礎力】 【知識・理解】 1) 人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。 ①人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。 2) 社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。 ①社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 3) 将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義関連への理解を深めることができる。 ①生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。 ②職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。</p>	<p>【社会人としての汎用の能力】 【技能・表現】 1) 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 2) 自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。 3) 将来社会生活・職業生活に必要な基礎的スキルを身につけ、問題を発見し解決することができる。 ①情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、メールに則って効果的に活用することができる。 ②情報を複眼的に複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。 ③問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を用いた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 ④職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成、必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。</p>	<p>【地域生活を支援し、創造する力】 【行動・経験・創造的思考力】 1) 物事に進んで取り組み、他人との協働のなかで行動することができる。 ①物事に進んで取り組み行動することができる。 ②他人に助けを借り、巻き込みながら行動することができる。 2) 目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。 ①獲得した知識・技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。 ②経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ③これまで獲得した知識、技術、技能、態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。</p>
【食物栄養学科】専門的知識・技能要素・到達目標及び学修成果	<p>【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 【態度・志向性】 1) 栄養士としての自立的な心構えを持ち主体的に考え取り組むことができる。 ・栄養士の仕事内容を理解する ・自分がどういった栄養士になりたいのか目標を持つ ・自立的に実践・実習内容について予習・復習ができる ・自主的に研究を進める 2) 健康と環境や社会に関心を持つことができる。 ・食物・栄養に関する社会的問題に興味がある ・食物や栄養に興味がある ・食の流通や消費について考える ・食生活上の安全性の確保のあり方に関心をもつ 3) 他者と協働性を持つことができる。 ・約束を守る ・規則を守る ・時間を見ながら行動できる ・自己管理ができる</p>	<p>【教養ある専門職業人としての基礎力】 【知識・理解】 1) 社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康についての基本となる知識と理解を身につける。 ①社会生活と健康について知識と理解を身につける ・公衆衛生の定義について理解する ・疫学的因果関係を分析・予防法を考える ・環境と健康の関連性を理解する ・国民の健康状態を把握し、健康の維持増進に努める ②人体の構造と機能において、生活活動や環境変化の適応について理解する ・人体の構造と機能について理解する ・運動がもたらす身体への影響や効果を理解する ・栄養素の代謝について理解する ③食品の各種成分の栄養特性、食品の衛生管理について理解する ・食品や栄養について理解する ・食品成分の科学や変化について知る ・食品の機能性について説明できる ・食品成分が健康に与える影響の理解 ・食品衛生と食中毒予防を理解する ④栄養とは何か、その意義と栄養素の代謝及び生理的意義を理解する ・栄養学の意義を知る ・5大栄養素の役割について理解する ・栄養素の体内での働きや必要量を知る ⑤各種疾患における基本的な食事療法について習得する ・疾病の成り立ちについて理解する ・疾病別の栄養管理（食事療法）について理解する 2) 給食の運営において、給食業務実施のために必要な食事計画や調理を含めた技術を修得する。 ・給食業務に必要な知識と技術が身につけている ・調理の知識と技術が身につけている ・料理の特色、献立の種類や構成を理解している ・調理用語が分かる・四季折々の食材を使用している 3) 栄養の指適において個人・集団・地域における栄養指導の方法を修得する。 ・対象者に合わせた栄養指導方法を理解する ・栄養士に必要なカウンセリングについて理解する ・地域の健康や食生活の問題点に関心を持ち解決方法を身につける</p>	<p>【専門職業人としての汎用の能力】 【技能・表現】 1) 給食業務に関する処理能力を身につける。 ・栄養価の計算ができる ・調理技術の習得・献立作成と展開ができる ・給食の運営ができる 2) 対象別適切な栄養指導が出来る。 ・指導の計画を立案できる ・PDCAサイクルに基づいた実践ができる ・栄養指導のための媒体やイラストの作成ができる 3) 文章作成力やプレゼンテーション力を身につけ、課題の発見とその解決に向けての行動力や意欲を養うことができる。 ①課題を発見し、その解決に向けての行動ができる ・対象者の状況を把握し課題を発見できる ・課題解決に必要な情報を収集・整理・分析できる ・解決に向けての行動ができる ②文章作成力を身につける ・実施したことを記録し報告書としてまとめることができる ・研究レポートが書ける ・宿題・授業レポートが書ける ・実習日誌の記録ができる ③プレゼンテーション力を身につける ・自分が考えていることをまとめ、人前で発表ができる ・自己アピールができる ・グループディスカッションにおいて自分の意見を表現できる</p>	<p>【地域生活を支援し、創造する力】 【行動・経験・創造的思考力】 1) 栄養士として洞察力、感性をいかした行動がとれる ・学校行事や各種コンテストで豊かな創造力を発揮できる ・料理作りで創意工夫ができる ・作品を製作する 2) 実践を通じ栄養士として地域貢献できる力を身につける ・食育活動の場で体験学習ができる ・イベントなどに積極的に参加できる 3) 他者と協働性をもって協働できる ・グループワークができる ・コミュニケーション力を身につける ・報告・連絡・相談ができる</p>

表2 カリキュラムチェックリスト

科目	汎用的能力要素（共通）												専門的能力要素（学科）												
	【態度・志向性】			【知識・理解】			【技能・表現】			【行動・経験・創造的思考力】			【態度・志向性】			【知識・理解】			【技能・表現】			【行動・経験・創造的思考力】			
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
共通教育科目群 (共通)	科目1	10		20								50		20											
	科目2	10			30						10				20		10								
	科目3		10				20		40							10			20						
専門科目群 (学科)	科目1	5				20								10	5		40					10			10
	科目2			5			10			10						5			20			40		10	
	科目3							10			10				10				10			20	20		20
ディプロマポリシー要素 #	⑤	①	①⑥	①	①	①	①	①	⑥	⑤	⑤	⑤	③	③⑥	③	②	②	②	④	④	④	③⑥	③	⑤	

本表のカリキュラムチェックリストは入力例として表示するものである。

2. カリキュラム分析及び考察

学生が修学期間全体を通して何を学んだか、カリキュラム全体を通し、どのような学修成果を得たかを明確にする必要がある。修学期間全体を通した学修成果は、教育・指導・支援・サービスによる学修と学生生活を含めた総合的な学びを意味しており（修学期間中で把握できない、関与できない学生本位の学び）、カリキュラムベースの学びとこれ以外の支援・サービスによって得られる学びを含めるものであり、エンロールメントマネジメントとして教職協働体制を構築し、このなかでの運用が求められる。エンロールメントマネジメントは、広義には入学前教育から卒業支援までの広い期間を含めることが多い。

学修到達目標には、機関全体の到達目標と各学科の到達目標がある。前者は教職協働でのエンロールメントマネジメントとして、主に職員側の支援の充実が期待される。後者は各カリキュラムマネジメントとして、教員側がその主たる役割を担っている。カリキュラムベースの教育は、カリキュラムポリシーに基づいて、その学修到達目標とディプロマポリシーが、カリキュラムを構成する各科目によって接続されるものでなければならない。

本研究では、試行運用された平成26年度のカリキュラムチェックリスト（CCL）に基づいて整理された食物栄養学科のカリキュラムについて、専任教員担当科目の集計分析（単純集計）を行い、その特徴を見出し今後の課題について検討を行った。

3. カリキュラムチェックについて

3.1. 調査対象について

本学食物栄養学科平成26年度カリキュラムについて、

専任教員が担当する専門科目を調査対象とし、カリキュラムの特徴を考察した。本カリキュラム中の専任教員が担当する科目は、展開科目数（合計単位数）41科目（63単位）中の29科目（41単位）であり、卒業要件となる必修科目23科目（36単位）中の18科目（27単位）を占める。調査対象科目は、全科目数及び卒業必修科目の70.7%（単位総数の65%）、卒業必修科目の単位総数の75%をそれぞれ占めている。今回の調査対象の、到達目標（観点別能力要素）あるいはディプロマポリシー要素との相関から、専門科目群の特徴をおよそ見出すことが可能と考える。カリキュラムの構成科目は、共通科目群と専門科目群で構成される。非常勤講師担当科目に対しては、今後の学科カリキュラムチェック（カリキュラムベースのPDCAは、学科専任教員が中心となって実施される。）によって、各学科目学修の到達目標に対する観点別能力要素の評価を依頼することが想定される。共通科目については、およそ本学必修科目並びにその他の選択科目の全学的な能力要素の積み上げになるため、本調査から得られる結果は、本学科カリキュラム独自の特徴や傾向を捉えるものとする。

3.2. 構成科目の観点別能力要素について

カリキュラムの調査対象科目による各観点別能力要素の構成について集計を行った。その結果を図1に示す。4つの観点別能力要素を構成する科目数（累計）は、それぞれ【態度・志向性】39科目、【知識・理解】40科目、【技能・表現】35科目、そして【行動・経験・創造的思考力】47科目であった。観点別能力要素を構成する科目数平均（40科目）から見れば、観点別能力要素を構成する科目数は一様に構成されているが、汎用的能力要素・専門的能力要素別ではそれぞれ53科目・108科目であり、この内訳は、【態度・志向性】5科目・34科目、【知識・

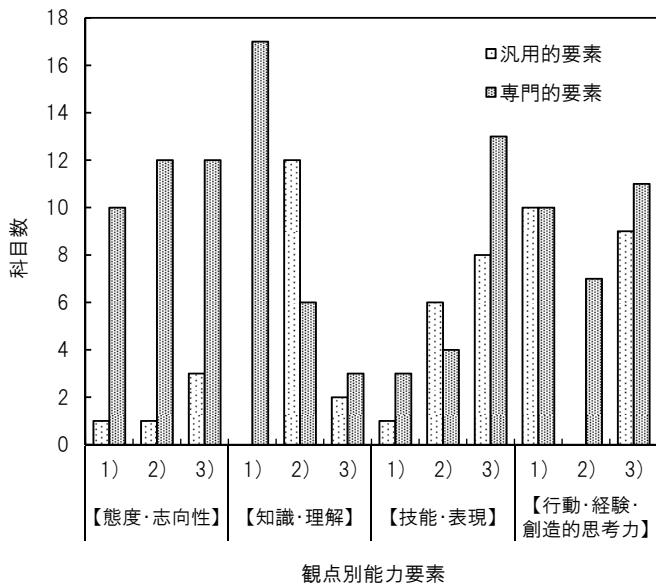


図1 能力要素別該当科目数

理解】14科目・26科目、【技能・表現】15科目・20科目、そして【行動・経験・創造的思考力】19科目・28科目となっている。図1からは、次の点が主な特徴として示される。まずカリキュラムにおいて科目が最も関連付けられている観点別能力要素は、【態度・志向性】の専門的要素であるが、到達目標の小項目1)2)3)の構成科目からは、【知識・理解】の専門的要素1)への関連付けが最も多いことが分かる。【態度・志向性】は専門的要素に求める科目が占めていることから、専門科目が構成する態度・志向性は、汎用的要素のそれと乖離しているといえる。【知識・理解】は、その到達目標の小項目1)2)3)において、汎用的要素と専門的要素の内容に大きな違いがあると考えられる。また、汎用的要素1)を構成する専門科目が無いことを示し、【知識・理解】を構成する科目は、専門的要素1)そして汎用的要素2)の順に科目構成が多いことが分かる。またいずれの要素3)に関連する科目が少ないことが示される。【知識・技能】を構成する科目数は、専門的要素3)が最も高く、そして汎用的要素3)そして2)と続く。いずれの要素1)を構成する科目は少ないことが分かる。【行動・経験・創造的思考力】を構成する科目数からは、いずれの要素1)3)の構成はほぼ等しいが、汎用的要素2)を構成する専門科目が無く、また専門的要素を構成する科目数も比較的少ないことが分かる。

各観点別能力要素を構成する科目群の配点合計について集計を行った。その結果を図2に示す。4つの観点別能力要素における汎用的要素・専門的要素それぞれの配点合計は、【態度・志向性】50点・465点、【知識・技能】225点・995点、【技能・表現】190点・360点、【行動・経験・創造的思考力】235点・370点であった。図2から、次の特徴が示される。まずカリキュラムが最も

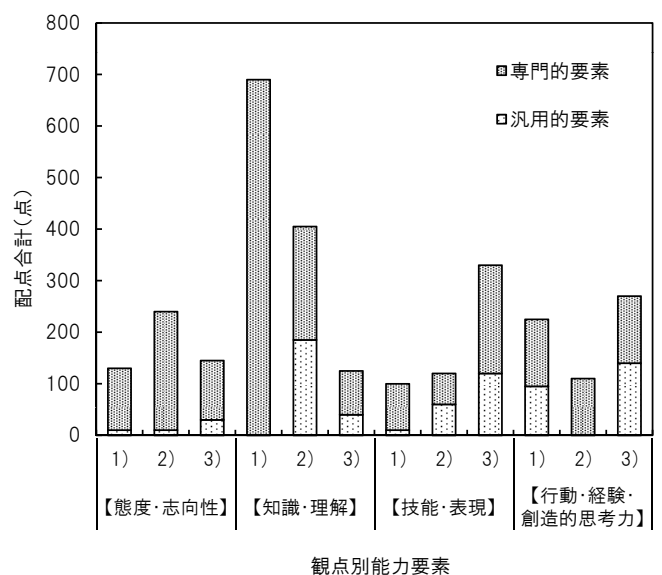


図2 能力要素別構成科目群の配点

重視するものは、【知識・理解】の専門的要素1)であり、全体の42.2%を占めていた。その他は概ね一様であることが分かる。この内訳は、【態度・志向性】17.8%、【技能・表現】19.0%、そして【行動・経験・創造的思考力】20.9%であった。また、汎用的要素では【知識・理解】の要素2)が最も高いことを合わせ、カリキュラムは総じて【知識・理解】に重点を置く評価をしていることが分かった。

各観点別能力要素における科目あたりの配点平均について集計を行った。この結果を図3に示す。4つの観点別能力要素の科目あたりの配点(平均)は、全体では18.0点、観点別能力要素では【態度・志向性】13.2点、【知識・理解】30.5点、【技能・表現】15.7点、そして【行動・経験・創造的思考力】12.9点であった。汎用的要素・専門的要素それぞれの科目あたりの配点内訳は、【態度・志向性】10.0点・13.7点、【知識・理解】16.1点・38.3点、【技能・表現】12.7点・18.0点、そして【行動・経験・創造的思考力】12.4点・13.2点であった。図3からは次の特徴が示される。【知識・理解】では、1科目あたり配点が他の要素と比べておよそ2~3倍程度と高く、この要素を構成する科目の配点の偏りが強く示された。

構成科目の観点別能力要素のまとめとして、4つの観点別能力要素全体において各要素を構成する科目の配点割合並び科目あたりの配点について集計を行った。その結果を図4並びに図5に示す。各要素における科目の配点割合(図4)は、汎用的要素全体で24.2%(専門的要素全体は75.8%)あることから、専門科目群において、およそ1/4は汎用的能力要素を求めていると考えられる。また専門的要素の配点割合からは、【知識・理解】の配点が高く、35%を占めており、カリキュラムの大きな特徴が示される。一方、能力要素別の科目あたりの配

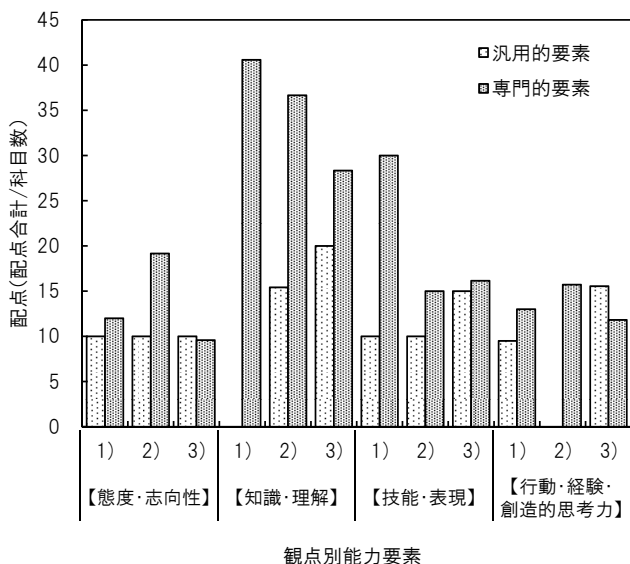


図3 能力要素別の科目あたりの配点

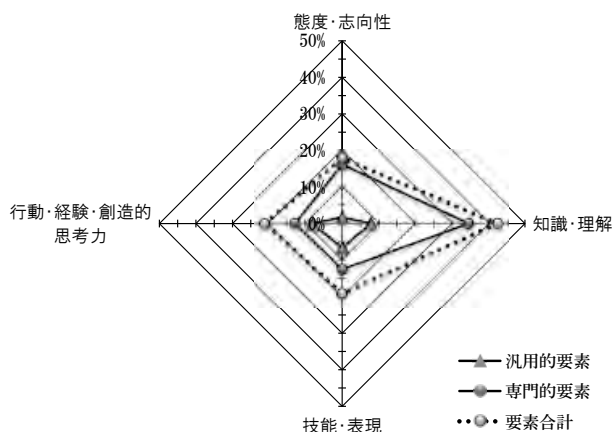


図4 能力要素別配点割合

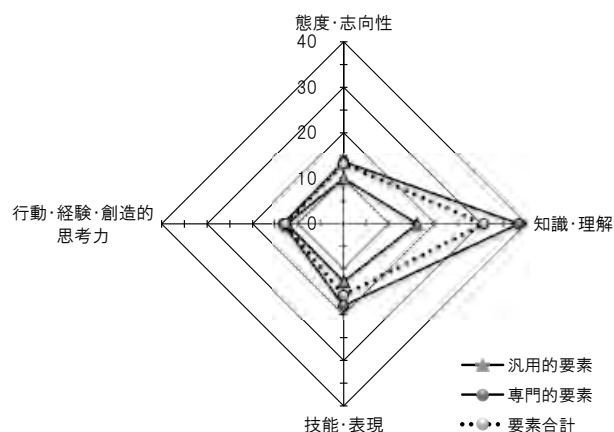


図5 能力要素別科目あたりの配点

点について（図5）は、4つの観点別能力要素それぞれの汎用的要素に対しては、およそ10～20点の範囲で同様である。このことは、専門的要素の【態度・志向性】、【技能・表現】、そして【行動・経験・創造的思考力】にも当てはまるが、【知識・理解】は他の配点と比べおよそ2～4倍ほど高いことが分かり、カリキュラムでの【知識・理解】の科目あたりの配点にも重点が置かれたものであることが判断される。

3.3. 観点別能力要素とディプロマポリシーの相関について

カリキュラムを構成する科目は、カリキュラムで策定された学修到達目標（観点別能力要素）の文脈に沿った教育がなされる必要がある。この一方で学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に対応したカリキュラムが策定されなければならない。

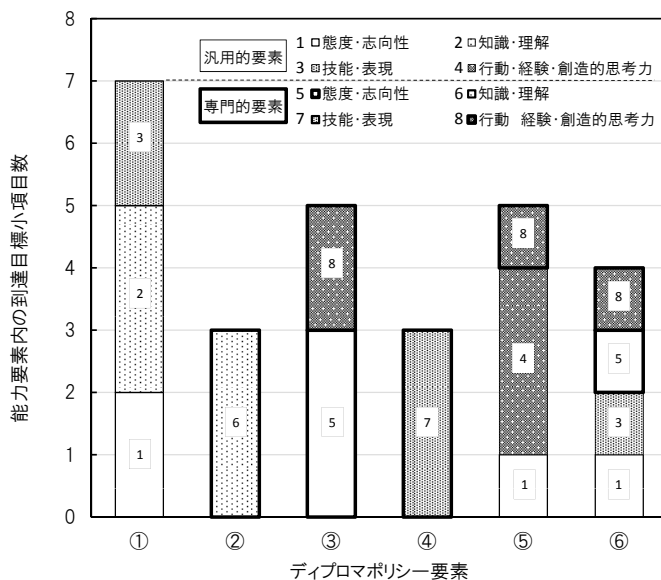


図6 ディプロマポリシー要素と能力要素の関係

ディプロマポリシーの要素に対する観点別能力要素の小項目数について集計を行った。この結果を図6に示す。図6からは、ディプロマポリシー要素①は汎用的能力要素に、ディプロマポリシー要素②③④は専門的能力要素にそれぞれ関連付けられており、汎用的要素と専門的要素の区別が明確に示される。一方ディプロマポリシー要素⑤⑥は汎用と専門的能力要素の双方に関連付けがなされている。ディプロマポリシー要素①は、観点別能力要素の小項目との関連付けが7項目と最も多い。ディプロマポリシー要素②並びに④は、いずれも関連付けられた小項目数が3項目と少ないが、それぞれ専門的能力要素の【知識・理解】並びに【技能・表現】の小項目全てに関連付けられており、到達目標（観点別能力要素）と一対一の関係にあると言える。ディプロマポリシー要素⑤は、汎用的な態度や行動との関連付けが強く示され、ディプロマポリシー要素③では、専門的な態度と行動に能力要素の関連付けがなされている。そして、ディプロマポ

リシー要素⑥では、最も複合的に能力要素への関連付けがなされている。これらの事柄から、食物栄養学科のディプロマポリシーが、コンピテンシーのピラミッド型構造と同様の要素構成をしていることが考えられる。

各ディプロマポリシー要素を構成する科目数（累計）について、観点別能力要素別の集計を行った。この結果を図7に示す。ディプロマポリシー要素別の構成科目数は、要素①は25科目（内訳は、【態度・志向性】4科目、【知識・理解】14科目、【技能・表現】7科目）、要素②は26科目（専門的要素の【知識・理解】）、要素③は51科目（【態度・志向性】34科目、【行動・経験・創造的思考力】17科目）、要素④は20科目（専門的要素の【技能・表現】）、要素⑤は31科目（【態度・志向性】10科目、【行動・経験・創造的思考力】の汎用的要素19科目と専門的要素の11科目）、そして要素⑥は33科目（【態度・志向性】の汎用的要素3科目と専門的要素12科目、汎用的要素の【技能・表現】8科目、専門的要素の【行動・経験・創造的思考力】10科目）であった。要素①のうち、汎用的要素の【知識・理解】1) に対しては、構成科目が無いことから、非常勤講師担当科目あるいは共通科目群によって担保されなければならないことが分かった。

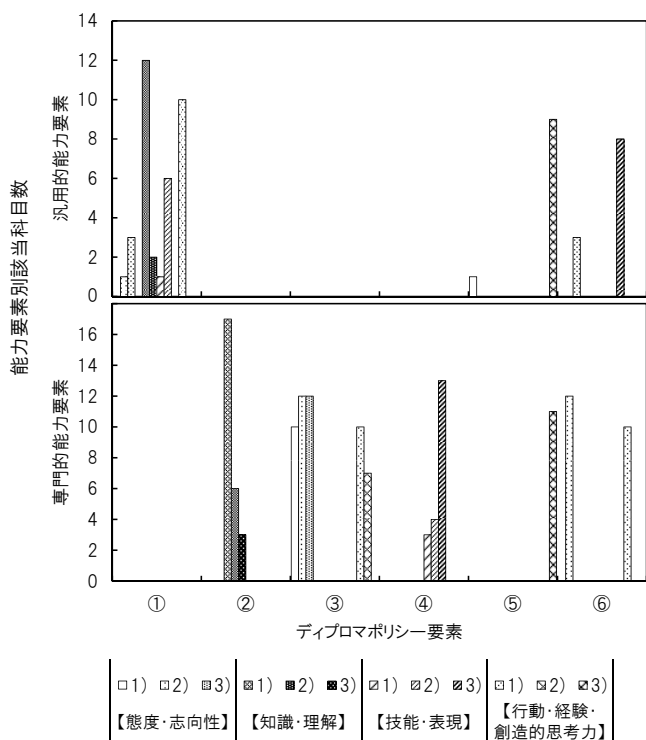


図7 ディプロマポリシーと能力要素別該当科目数の関係

ディプロマポリシー要素①～④の能力要素別区分は、関連付けられた科目が汎用的要素と専門的要素とに明確に区別されていることが分かる。ディプロマポリシー要素⑤⑥は、その区別はないが、要素③を構要素に偏っていることが分かる。ディプロマポリシー要素別には、要素③を構成する科目数が最も多く、構成要素に対しては

ほぼ一様に科目数が関連付けられている。この特徴は要素⑥にも示されている。一方要素④は構成科目数が最も少ないが、【技能・表現】3) に重点が置かれたものとなっている。この他のディプロマポリシー要素①②⑤についても同様に、観点別能力要素の特定の項目にそれぞれ重点が置かれていることが分かる。

これらの科目の構成において、ディプロマポリシー要素の配点集計（累計）を行った。この結果を図8に示す。ディプロマポリシー要素別の配点合計は、要素①は335点（内訳は、汎用的要素のそれぞれ【態度・志向性】40点、【知識・理解】225点、【技能・表現】70点）、要素②は995点（専門的要素の【知識・理解】）、要素③は705点（専門的要素の【態度・志向性】465点と【行動・経験・創造的思考力】240点）、要素④は360点（専門的要素の【技能・表現】）、要素⑤は375点（汎用的要素の【態度・志向性】10点、【行動・経験・創造的思考力】の汎用的要素235点と専門的要素130点）、そして要素⑥は510点（【態度・志向性】の汎用的要素30点と専門的要素230点、汎用的要素の【技能・表現】120点、そして専門的要素の【行動・経験・創造的思考力】130点）であった。図8からは、ディプロマポリシー要素②における専門的要素の【知識・理解】が突出しており、全体の30%に相当する。とりわけ【知識・理解】1) は全体の21%に及ぶ。このことから、ディプロマポリシーのコアは要素②に置かれていると言える。この他の要素①, ③～⑥においては、配点が100～200点を示す特定の観点要素の項目に偏っていることが分かる。

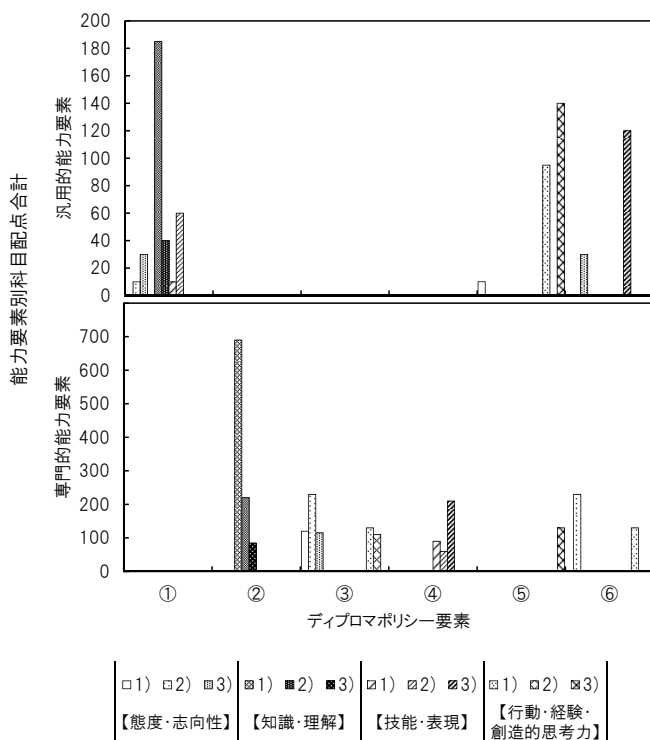


図8 ディプロマポリシー要素の能力要素別科目配点合計

ディプロマポリシー要素を構成する科目あたりの配点平均について集計を行った。この結果を図9に示す。ディプロマポリシー要素別の構成科目あたり配点は、要素①が13.4点、要素②が38.3点、要素③が13.8点、要素④が18点、要素⑤が12.1点、そして要素⑥が15.5点であった。図9が示す通り、ディプロマポリシー要素②そして要素④において、それぞれ専門的要素の【知識・理解】1)2)3)そして【技能・表現】1)は、他の観点別要素と比べておよそ2～3倍高い配点であり、これらを構成する科目への依存度が高いと考えられる。これらは科目の特徴としてそれぞれの観点別能力要素への貢献度が高いと言える。その他の配点は、ディプロマポリシーに対して概ね一様に配点評価されると言える。

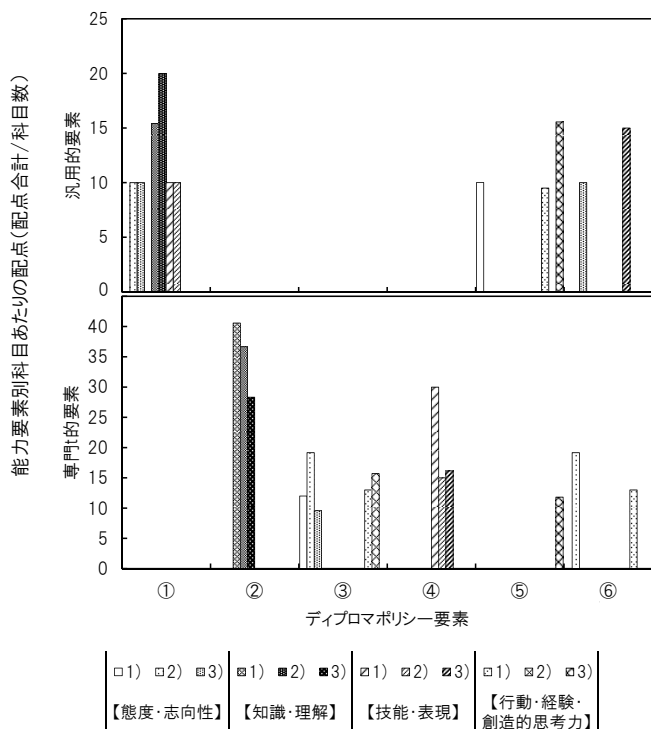


図9 ディプロマポリシー要素別の該当科目配点

観点別能力要素とディプロマポリシーの相関のまとめとして、各ディプロマポリシー要素を構成する科目の配点を考察するために、4つの観点別能力要素における構成科目あたりの配点割合並びに各ディプロマポリシー要素に対してこれを構成する科目あたりの配点を集計した。この結果を図10並びに図11に示す。図10からは、配点の割合は、ディプロマポリシー要素に対して一様ではなく、要素②が最も高いことが分かり、カリキュラムはディプロマポリシー要素②に重点が置かれていることが分かった。ディプロマポリシー要素②、要素④、そして要素⑤はそれぞれ、ほぼ単一の観点別能力要素【知識・理解】、【技能・表現】、そして【行動・経験・創造的思考力】を構成する科目によって配点されていることが分かった。この他の要素①③⑤について、要素①はおよそ70%が汎用的要素の【知識・理解】、要素③と要素④

はそれぞれ70%と40%が専門的要素の【態度・志向性】に求めていることが分かった。また、各ディプロマポリシー要素に対してこれを構成する科目の配点について、4つの観点別能力要素を構成する科目あたりの配点合計(累計)を集計した。この結果を図11に示す。図11から、ディプロマポリシー要素それぞれに対しては、全体の配点合計が要素⑥で57.2点と最も高く、要素④で18.0点と最も低く、一様になっていない。これは、配点合計が低いものほどディプロマポリシー要素に対しては該当科目の評価の重みが高い(構成科目数に比べて評価配点が少ない)と言える。ディプロマポリシー要素②を除いては、各観点別能力要素を構成する科目あたりの配点はそれぞれ10～20点の範囲内にあり、ほぼ一様と考えられる。

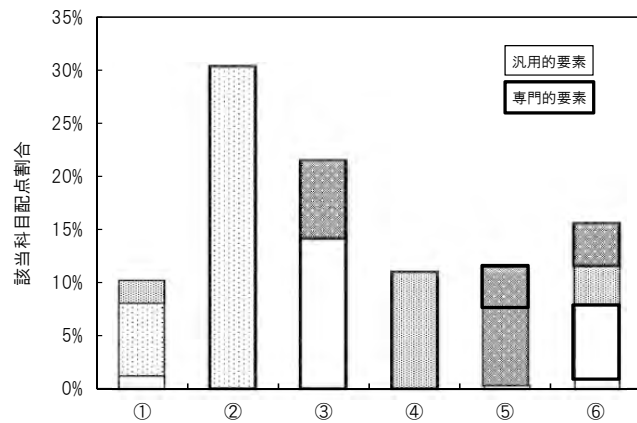


図10 ディプロマポリシーの能力要素別科目配合割合

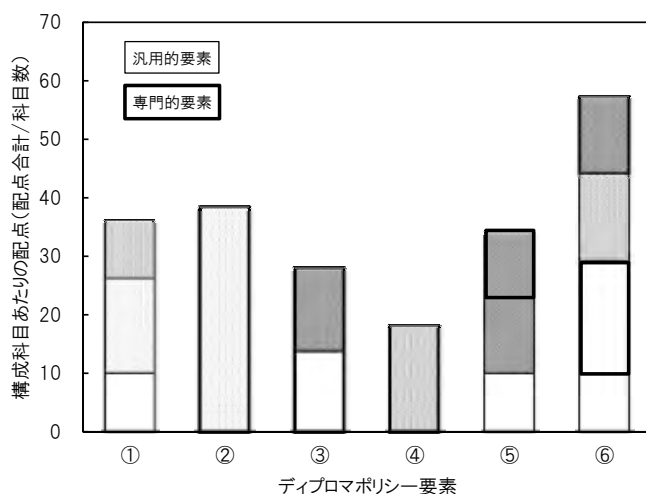


図11 ディプロマポリシー要素の能力要素別科目配点

4. 今後の分析と検証について

本研究では、専任教員が担当する専門科目をもとに、カリキュラム全体の単純集計の特徴を示したものである。今後の集計は、科目の必修・選択、開講期、単位数、授業種別などの条件を考慮し、成績評価と合わせて複合的に分析していく必要がある。平成27年度からは科目系統図そして科目ナンバリングが策定されており、平成27年度の「教育に関する基本方針」に基づいて実際の運用を開始する。今後は、カリキュラムを構成する全科目の配点比率の情報が集約されるほか、学年配当、科目系統、学修レベルの情報、卒業要件や資格取得要件科目の必修・選択に応じた実際の履修、そして学生による授業評価の情報が付加される。この一方では、学生実態調査や学生満足度調査など間接的な情報も収集されており、今後のカリキュラムの検証においては、この改善のみならず、背景にある修学支援の改善も実施運用においては求められる。アセスメントポリシーに従ってカリキュラムチェックリストを用いたデータに基づくカリキュラムの検証評価が期待される。本文に表示した棒グラフ形式等については、今後の運用においてレーダーグラフ等でより視覚的判断が付き易い表示の工夫が必要と考える。また今後のより複合的な分析において、ルーチン化される分析内容については、一定のひな形を作成しておく必要があると考える。学修成果は、各科目の成績評価をベースとした、到達目標に対する学生個々の学修到達度が示されることになる。今回の分析結果を指標に、各学期の学修到達レベルの指標を設定していく必要がある。この一方で、平成27年度は、コンピテンシーの4

つの観点別能力要素（到達目標の24項目）のルーブリック評価指標が策定され、カリキュラムポリシーの実質化が図られる予定である（図12）。今後のこの運営においては、カリキュラムベースの教育・指導、その検証による改善努力はもちろんであるが、エンロールメントマネジメントとして教職協働の支援・サポート体制の充実が不可欠であることは言うまでもない。

注）本研究の一部は、私学事業団「未来経営戦略推進経費」によって実施されたものである。

参考文献

- 1) 文部科学省中央教育審議会（答申）「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—」平成10年10月26日。
- 2) 文部科学省中央教育審議会（答申）「学士課程教育の構築に向けて」平成20年12月24日。
- 3) 文部科学省中央教育審議会（答申）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」平成24年8月28日。
- 4) 松下佳代『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー—』ミネルヴァ書房（2010）。
- 5) 小川勤「学士課程教育の質保証のための組織的カリキュラム改善の取組 —「教育改善FD研修会」を通じたカリキュラム改善の試み—」京都大学高等教育研究第16号 p13-24（2010）。

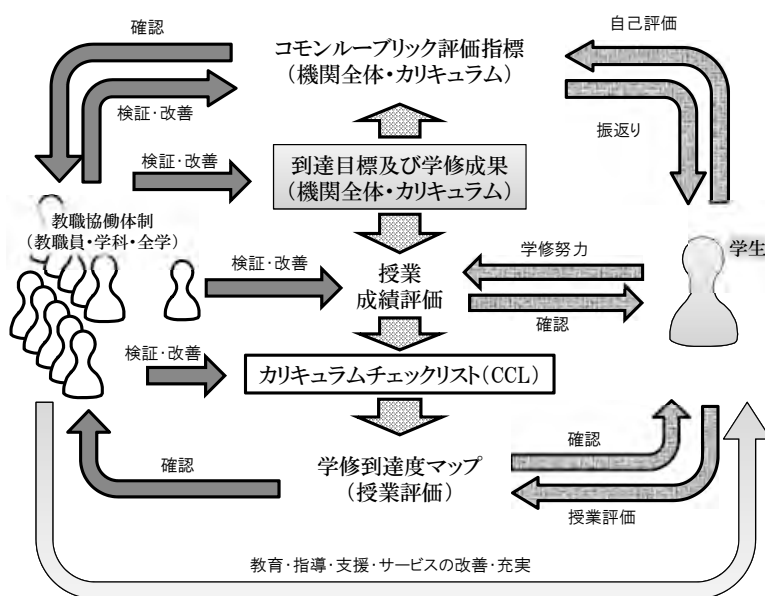


図12 カリキュラムポリシーの実質化